

さんがくしゅげん だい18ごう

#22 山岳修験 第18号

作者：田中宣一（たなか・せんいち 1939年-）ほか

刊行：平成8年（1996）



📖 解題

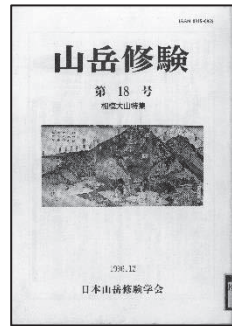
■ 内容

『山岳修験』は歴史、地理、民俗、宗教、文学、美術、芸能、考古といった分野の研究論文や史料を掲載する雑誌で、本号は「相模大山特集」と題し、大山信仰に関する論考5本を収録する。各論のタイトルおよび著者は以下となっている。

「大山信仰と大山講」（田中宣一）、「大山詣の参詣路」（高野修）、「大山信仰の啓蒙活動」（鈴木良明）、「近世の大山講と大山御師—上総国作田村の大山講史料を中心に—」（菅根幸裕）、「近世の大山信仰と御師の組織—史料紹介—」（圭室文雄）。

日本では古くから山を神聖視し奉ってきたが、大山もまた往古より霊山とされ、人々から崇拜されてきた。あめふりやま・あふりやまと称されるように雨を降らせ水を恵む神として、農民はもとより、火消しや漁民（ヤマアテとしても重要視された）からも広く信仰を集めた。また死者の赴く他界とされて葬送儀礼とも結びついた。これらの他にも、商売繁盛、病氣平癒など時代や生業ごとに種々の様相を見せ、数多くの講（同一の信仰を持つ人々による結社）が形成された。この大山講は御師（おし）の積極的な活動（檀廻）によって近世後期に隆盛を迎え、相模国のみならず周辺諸国に広がり、往時には富士山と共に大勢の参詣・登拝者で賑わった。

各論考はこれら大山信仰について、参詣路、出版物、御師の組織形成やその記録史料といった様々な角度から紐解いたものとなっている。また、巻末には日本山岳修験学会によるシンポジウム「大山信仰と大山詣」の参



[K17.64/45]

### 第3章 思想・宗教

加記・回想録も併せて収録されている。

#### ■ 作者

田中宣一 (たなか・せんいち) : 成城大学名誉教授。『徳山村民俗誌』(慶友社 2000) や『名づけの民俗学』(吉川弘文館 2014) など著作多数。

高野修 (たかの・おさむ) : 元藤沢市文書館長。著書に『一遍上人と聖絵』(岩田書院 2001)、『一遍上人語録』(岩田書院 2009) などがある。

鈴木良明 (すずき・よしあき) : 執筆時は神奈川県立歴史博物館学芸員。現在は鎌倉国宝館館長。

菅根幸裕 (すがね・ゆきひろ) : 國學院大學栃木短期大学日本史学科教授を経て、現在千葉経済大学経済学部教授。

圭室文雄 (たまむろ・ふみお) : 明治大学名誉教授。『神仏分離』(教育社 1977)、『日本仏教史 近世』(吉川弘文館 1987) など著作多数。

#### 📖 参考文献

田中宣一「相州大山講の御師と檀家：江戸末期の檀廻と夏山登拝をめぐって」(『日本常民文化紀要』第8集-2 成城大学大学院文学研究科 1982) [Z051.3/129]

圭室文雄「大山不動靈驗記に見る大山信仰」(『郷土神奈川』第18号 神奈川県立文化資料館 1986) [K097/3/16-20]

圭室文雄「伊勢原市域における大山信仰：『大山不動靈驗記』を中心に」(『伊勢原の歴史』第2号 伊勢原市 1987) [K21.64/6/1-3]

『大山信仰』圭室文雄著 雄山閣出版 1992 (民衆宗教史叢書 第22巻) [K17.64/33] [163.1/102]

松岡俊「相模大山御師の形成と展開」(『伊勢原の歴史』第7号 伊勢原市 1992) [K21.64/6/7]

『相模・武蔵の大山信仰』関東民具研究会編 岩田書院 2011 [K38/234]  
『日本の霊山読み解き事典』西海賢二ほか編 柏書房 2014 [163.1/136]  
『相州大山信仰の底流』川島敏郎著 山川出版社 2016 [K17.64/58]